

金壹圓五拾錢	原田種龜	岡本榮一	轟坂小牧
金貳圓	兒玉來	竹内虎夫	藤原卓之
	太田清藏	日野光平	青木友彌
	小登晋	小林禮二	宮田清義
金貳圓	川島甲一	古越光明	村田孝男
	堀江尙	牧野金次郎	平野秀男
金參圓	岡部康之	三浦重雄	小川保
	原茂	窪田禎作	吉澤武夫
	佐藤良太郎	野本治兵衛	小林茂樹
	宮澤勇	篠田平三郎	渡邊齊
	小林貫一	加藤文吾	澤田英三郎
金四圓	小林庸	(篠原善次)	石川健丸
	高橋伊作	小林道眞	鹽原克己
金五圓	北澤茂	芝荒雄	小山俊吾
	北本重郎	吉野健吉	山口貞周
	高木三治	加美好男	藤井周藏
合計	貳百五拾五圓五拾錢		飯島直
通信費	五圓五拾錢		
差引贈呈料	貳百五拾圓也		

× × × × ×

編者等の言

流れて動いて止まないのが吾等の住む三千世界である。さすれば改造、變革は當然と云ふよりか必然の事であらねばならない。世の所謂良くするか、悪くするか……改變に依つて……は各自が定めた範圍内に於ける其有機的体系中に共存する各個単体の努力、誠意に依る外に何物もない。同窓會雜誌は之れで表面上終りを告げる、而して代議員會の決議に基いて「千曲時報」と變形して毎月諸兄に御目にかゝる事となる。それは昭和五年度からである。

忙しい事は吾れ人共に皆同じであるだらうと思ふ然し一年に一回や二回の短信位書けない様な低脳な男はまづ本會員にはあるまいと思ふ。それ程迄に多忙に働かねば一人前の仕事が出来ない。矢鱈に金を取るばかりの同窓會だと云ふ批評を各地で聞くが、それは同窓會が各自會員の惠福の爲になる様に、十分の仕事が出来て居ない證據である事は勿論である。其實は誰れにある……各自會員にあると思ふ。不平があり、欠點を見附けたら直ぐに本部へ怒鳴り込んで貰はねばならん。如何に傑い人、完全な人と云へ人間であつて見れば欠點だらけのものである、即ち此欠點だらけの人間の集合である同窓會なんだもの……此以上多くを云ふを要しないだらう。

(編輯部員一同)